

「IT・IoTで変わった! IT・IoTが変えた!」 (株)百十四銀行 リーディングカンパニーの導入事例



香川県を基盤に、東京から福岡まで11都府県にわたる店舗ネットワークを展開。地域のプラットフォームを目指して、企業が抱えるさまざまな課題解決のためのソリューション提供に取り組んでいます。

百十四銀行

〒760-8574
香川県高松市亀井町5番地の1
<https://www.114bank.co.jp/>

IT・IoT
なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「うちの会社で、どう使ったらいいかい」
「イメージが湧かない...」
そんな皆さま必見のコラムです。

高松のIT・IoT先進企業(リーディングカンパニー)が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載でご紹介します。

第二弾は、株式会社百十四銀行です。

地銀の強みを活かして中小企業のIT・IoT化を推進

行内のIT化

ペーパーレス化でワークスタイルを変革

問題の多い紙ベースの運用からの脱却

契約書や稟議書を始め、膨大な文書を保管・管理する必要がある金融機関。百十四銀行では、15年ほど前からペーパーレス化に取り組んでいます。「ペーパーレス化がもたらした、業務効率化と生産性向上の効果は計り知れません。紙ベースの運用が主流だった時代には、回覧や決裁に時間がかかること、大量の書類を管理・保管するためのスペース確保や手間、移送のタイムロス、誤廃棄や紛失のリスクなど、多くの問題がありました」と、経営企画部の渡辺秀爾さん。現在では、日々の業務に必要な文書の大半をペーパーレスで運用。顧客に記入してもらう書類等、必要な書類は文書センター1カ所に集約して管理しているそうです。

効果が大きいものから段階的に取り組む

すべての紙文書のペーパーレス化を一齐に行うことは難しいため、同行では段階を設け



ほとんどの会議資料は印刷せずにデータで閲覧

て移行を進めてきました。最初に取り組んだのが、業務フローに大きく影響を与える融資稟議の電子化。業務プロセスの見直しから始まり、オペレーションの周知まで、半年ほどの準備期間を設けて全店舗一斉に開始しました。その後、直接コストにつながる人事や労務の分野でも続けて電子化を進めました。さらに4年前にはグループウェアを刷新。多種多様な書類の回覧や決裁、文書管理などの機能をグループウェアに集約したことで、行内の電子化が一気に加速。その他にも役員会議や営業活動など、現在ではペーパーレス化はさまざまな業務に広がっています。

顧客のIT化

地方銀行発! 企業に寄り添うITコンサルティング

地域のDX推進を目指してfreeeと業務提携

百十四銀行は2020年12月にfreeeと業務提携し、地域の中小企業向けにITコンサルティングを開始。freeeのプロダクトと既存のクラウドツールを組み合わせ、IT化とBPR(業務改革)を合わせてフォロワーし、効率化や生産性の向上を応援する取り組みが始まりました。他行を含めた取引銀行口座の残高や入金明細の管理ができるサービス「freee入出金管理With114BANK」の無償提供も併せてスタート。

強いニーズを実感 中小企業の期待に応えたい

「中小企業再生ファンドに出向していた時、中小企業のIT化の遅れを肌で感じました。当行のお客さまにIT化の利便性を享受してもらい、生産性向上のお手伝いをするには、これからの銀行の重要な使命だと思いました」と、営業戦略部の多田智彦さん。



ITコンサルティングには、企業それぞれの事業をよく理解することが必要。その点、銀行は普段から顧客の事業について対話をしており、業務改革の提案も可能な立場にあります。より適切で効果的なIT化の支援ができることがシステムベンダーにはない同行の強みだと多田さんは言います。「サービスを開始してまだ半年ですが、すでに100社以上から話を聞きたいという声がかかっています。地方銀行の強みを最大限に活かしてIT化への強いニーズに応えていきたい」と、力を込めて語ってくれました。